

秩父 今宮神社

奉賛会だより
(令和八年正月号)

年頭のご挨拶



今宮神社 宮司 塩谷 崇之



𤟖龍神様と歩む午年

ー 秩父の風土に祈りを込めてー
謹賀新年 謹んで新春のお慶びを申し上げます。

秩父の山々に抱かれ、龍神さまの加護を賜る当神社の氏子崇敬者の皆様におかれましては、清々しく令和八年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年は午年でございますが、実は私たちが祀る「龍」と「馬」には、古来より深い結びつきがございます。中国の古籍には「龍の精が地上に降りて馬となった」という説話があり、優れた馬を「龍駒（りゅう

く）」と呼ぶなど、馬は龍の化身であると考えられてきました。特に優れた馬や、才能ある若者を指す言葉でもあります。

天を自在に駆ける龍神さまと、地を力強く駆ける馬。この両者が揃う本年は、まさに天地の気が一体となり、物事が力強く好転していく「昇運」の年と言えるでしょう。

また、当境内に祀られております「馬頭観音」さまは、古くから地域の農耕や運搬を支えた馬たちの守護仏として、また旅の安全を守る仏さまとして、篤く信仰されてまいりました。荒々しい憤怒の相は、私たちの煩惱を喰らい尽くし、あらゆる災難を跳ね除ける強い慈悲の表れでもあります。

龍神さまの靈驗により雨が降り、大地を潤し、その上を馬が力強く駆けて実りをもたらす——この秩父の地で紡がれてきた自然と生への感謝を、この午年に改めて心に刻みたいものです。

本年が皆様にとって、龍の如く勢いよく、馬の如く軽やかに、前進し続ける輝かしい一年となりますように、心よりお祈り申し上げます。

𤟖中学生が「午年」の巨大絵馬奉納

秩父第二中学校の美術部の生徒さんたちから、今年の干支に因んで、



躍動感あふれる白馬を描いた立派な巨大絵馬をご奉納いただきました。当日の奉納祭の様子が、去る十二月二十六日夕刻のNHKニュース（全国ネット）で放映され、埼玉新聞でも、十二月三十日の朝刊に掲載されました。

躍動の一年へ巨大絵馬



秩父二中 今宮神社に奉納

秩父市立秩父第二中学校の美術部員11人が制作した巨大絵馬（縦約1・7m、横約2・4m）が26日、同市の中宮神社に奉納された。来年の干支（えと）「午（うま）」にちなみ勇ましい白馬が、参拝客を迎えられている。同部の巨大絵馬作りは今年で5年目。毎年、部員同士で新年の干支にちなみデザインのアイディアを出し合い、アクリル絵の具を使って、半年間かけて完成させている。今回は、たてがみの立派な躍動感ある頭の馬が、秩父の紅葉の中を駆け回る様子を表現した。部長で年生の形井いさくさん13は「色あいにこだわったみんなの自信作を、多くの方に目にきてほしい」と話していた。（中野春夫）

社殿右手の待合室の壁面に展示されていますので、ぜひご鑑賞にいらしてください。
なお、昨年の干支「巳」を描いた蛇の巨大絵馬と、一昨年の「辰」を描いた金龍の巨大絵馬も、社殿左手の東屋にて引き続き展示しております。こちらも力作です。併せてご覧ください。

𤟖神様と馬の深い関係（絵馬のルーツ）
神社に欠かせない「絵馬」ですが、もともとは本物の馬を奉納していたことが始まりです。

古来、馬は「神様が地上に降り立つ際の乗り物（神馬）」として神聖視され、祈願の際には生きた馬を奉納する習わしがありました。しかし、生きた馬を献上するのは大変な負担です。そこで、木で作った馬や、板に描いた馬の絵で代用するようになったのが「絵馬」の起源です。後に、皆様の願いを神様へ届ける馬の力にあやかり、庶民の間でも神社に絵馬を奉納するようになりました。

今宮神社では、運氣隆昌の龍神様と学業成就の天神様の二種類の祈願絵馬をご用意し、皆様の願いを絵馬に乗せて神様へお届けしています。



御神域を見守る馬頭観音さま

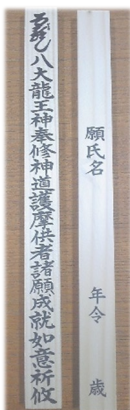


馬頭観音は、馬の頭を頂く忿怒（ふんぬ）の姿をした仏さま。馬の守り神として、家畜の健康や安全、交通安全、旅の安全を守り、動物供養などにご利益があるとされる観音菩薩の一尊です。煩惱を焼き尽くす力を持つことから馬頭明王とも呼ばれ、馬が雑草を食い尽くすように、人々の悪や煩惱も食べ尽くすとされます。日本では道端の石仏（供養塔）として多く祀られ、特に馬を供養する役割が強いのが特徴ですが、秩父地域ではかつて今宮坊の管理下にあった橋立観音堂（札所二十八番）のご本尊として知られています。今宮神社では、清龍の滝の後ろの小高い築山に祀られ、鋭い眼光で御神域を見守っています。

今年度の行事予定

◎神道護摩始め祭（一月四日）

毎月第三日曜日、役行者堂前斎場において執り行われている「神道護摩供養式」では皆様から奉納された「護摩木」に込められた祈りや願いを不動明王様の炎の霊力により焼き祓い浄め、神様にお届けする神事です。新年を迎えるにあたり、一年間滞りなく護摩供が行われるよう神仏に祈願いたします。



◎立春祭（二月四日）

立春を迎えるにあたり、神職・崇敬者により新年一月五日より三十日間に亘る「寒行」に入り、二月三日（節分）を以って満行を迎え、四日の「立春祭」におきまして皆様のご安泰・ご開運をご祈願いたします。立春祭にあわせて頒布される『立春大吉』の護符は、春の到来を喜び、災厄と招福を願うもの。当社では、数多の神々を産み給うた伊邪那岐（イザナギ）・伊邪那美（イザナミ）の二神のお力をもって春を招き入れます。

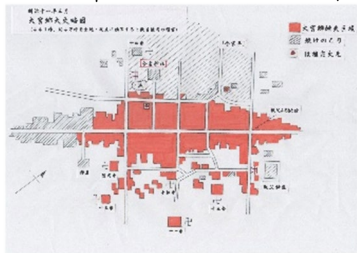
◎中町三社祭（三月二十日）

地元中町会・東町会及び秩父市消防団による火伏（火難除け祈願）のお祭りです。明治十一年（一八七八年）三月二十一日、中町を火元に発生した「秩父大火」は、秩父（当時は「大宮郷」と呼ばれていました）の市街地約四万坪四百四拾七棟を焼け尽くしました。

二度とこのような災禍の起こらないよう、翌年三月、今宮神社境内摂社に、火伏の霊験ある「秋葉大神」を祀り、以来百四十五年もの永きに亘り、毎年、

大火のあったこの日、地元町会や消防団を中心

として、火伏の神様（秋葉大神・古峯大神・三峯大神）に防災を祈願するお祭が斎行されます。



◎龍神祭（四月四日午前）

当社の霊池に祀られた八大龍王神のご神徳に感謝するお祭です。龍神祭は明治元年の神仏分離令以来行われませんでした。が、平成四年（一九九二年）に復活しました。

毎年四月四日午前に、龍神様を慕われる多くの氏子・崇敬者らの参列のもと、盛大に祭典が執り行われ、ご神前にて、巫女による舞や奉納演奏などが献上されます。

八大龍王神のご神徳への感謝とともに、世の中の安寧と五穀豊穡、氏子・崇敬者・関係者らの無病息災などを祈念いたします。

◎水分祭（四月四日午後）

水分（みくまり）神事は、秩父神社でおこなわれる御田植神事に先立ち、秩父神社

に龍神池の御神水を授与する神事です。秩父神社から神官・伶人・作家老・神部らからなる御神幸行列が当社を訪れ「水乞い」を行います。当社の宮司から秩父神社に、当社の龍神の御分霊を『水麻（みずぬさ）』（龍神様の御神徳）として授与します。秩父神社は、この水麻を奉斎して秩父神社に持ち帰ります。

秩父神社では授与された水麻を、田の水口をかたどる「藁の龍神」の頭部に奉ります。すると、境内の敷石に龍神様の御神霊が行き渡り、そこは一面の水田と見立てられ、神部らによって「御田植神事」が執り行われます。

◎役尊神祭（六月七日）

秩父霊場の開祖であり、また今宮坊の開基でもある役小角大神（役行者）の御聖徳を偲ぶお祭り。毎年、役行者の縁日である六月七日に最も近い週末、役尊神祠（行者堂）正面にて斎行されます。

祝詞奏上に続いて「特別護摩供」が執りおこなわれ、導師による護摩と読経の中で



参列者による玉串奉奠を行います。神道神事にこのような神仏習合の形式はいまでは珍しく、貴重な祭祀のひとつです。

◎大祓神事（六月晦日・十二月晦日）

年に二度、六月と十二月の晦日（月の最後の日）におこなわれる神事で、半年間に身についた罪穢を祓うために行う神事です。夏の祓を「夏越の祓」、冬の大祓を「年越の祓」と呼びます。

当社では氏子・崇敬者に予め配布した人形（ひとかた）に罪穢れや災厄を移し、火・水の霊力にて祓い清め、身も心も新たに、明るく正しい生活を続けられるよう祈願します。



◎例大祭（九月二十八日）

当社本殿に祀られている伊邪那岐大神・伊邪那美大神・須佐之男大神・宮中八神（御巫八神）の御神徳を仰ぎ、その御神恵に感謝するお祭で、毎年九月二十八日に本殿にて斎行されます。神々への礼拝を通じ、日頃のご加護に対し感謝するとともに、新たな一年の無病息災を祈願いたします。

